

てん菜栽培技術情報 No.1～2～育苗初期から中期の管理について～JA 今金町 農業経営課
北海道糖業(株)道南製糖所

1. 育苗初期の管理（てん菜栽培ガイド7ページ参照）

(1) 水管理

- ①播種後3日目に1冊当たり 10L を数回に分けて灌水して下さい。
(培土を使用する場合は土より水が浸透しづらいので、2～3回に分けましょう)
- ②灌水は暖かい日の午前中にペーパーポットに充分浸透させて下さい。
- ③発芽前までは、表面が濡れる程度に、1L/冊程度適宜灌水しましょう。
- ④育苗中は苗の表面が乾燥しない程度に、1～2L/冊程度の灌水を行いましょう。

(2) 温度管理（播種～発芽始め）

- ①発芽が始まったら日中は25℃を上限とし、夜間は10℃以下にしないようにして下さい。(この時期の温度管理が重要です。高温・低温障害に注意！)
- ②ビニールを開ける場合、外気が直接かからないようにしましょう。(こじれ苗の原因になります)
- ③発芽勢を高めるためには、夜間温度の維持が重要です。
- ④原則として保温用のシート被覆（べた掛け、トンネル等）は、発芽状況の確認や高温障害、苗焼け予防の為に日中は剥がしましょう。

※発芽始め～生育初期には特に高温に注意！ごく短時間で高温障害が発生する事例があります！

(3) 苗立枯病防除

- ①リゾレックスH粉剤による覆土処理(処理した覆土は3日以上保存しない)をする。
- ②灌注による防除（ジョウロ等で灌注する）の実施。

防除時期	薬剤名/薬剤量 (倍率)		水量 (6冊)
1回目：発芽50% (播種後 約7日後)	タチガレン液剤	6ml (1,000倍)	6L
2回目：1回目の7日後	同時使用 タチガレン液剤5 バリダシン液剤5	6ml (1,000倍) + 15ml (400倍)	

※バリダシン液剤5の使用回数は「1回」 タチガレン液剤の総使用回数「3回まで」

2. 育苗中期の管理（常に気温の変化には注意してください。）

※てん菜栽培ガイド7～8 ページ参照

(1) 水管理

①苗の表面が乾き過ぎないように適宜灌水する。

※ペーパーポット分離障害を防ぐために育苗期間を通じ、ポットが乾燥しないように気を付けましょう。

②極端な乾燥は生育を過度に抑制し、苗枯病の原因、紙筒分離不良の原因となる。

※スミセブンP液剤の散布後は、適宜灌水を行い発根を促進する。

(2) 温度管理

①日中は20℃を越えないようにし、夜間は5℃以下にしない。

②高温条件での育苗は、紙筒の分離に悪影響を与えるので注意する。

③徐々に低温にならし、外気にもあてる。

④急激な低温管理はこじれ苗・苗枯病の原因となる。

(3) 苗枯病

①発生が見られたら液肥の灌注及び昼夜の温度管理（温度差）を小さくして管理する。

②早期発見・対応に努め、苗床の過乾燥にも注意する。

(4) 斑点細菌病

①低温・過湿により発生が助長される。発生が見られたら下記の防除を実施する。

※1回の散布で症状が止まらない場合はお問い合わせ下さい。

②散布方法：茎葉散布（噴霧器使用）・・・噴霧器は必ず十分に洗浄して使用すること。

1ha（60冊）分

薬 剤 名	倍率	薬量	水量	総使用回数	備 考
加ミホルド [®] -又は カッパ [®] -ツ水和剤	800倍	3.75g	3L	5回 ※圃場使用含む	散布水量：50ml/1冊

3. 徒長防止について

(1) 苗ずらし・ワイヤー根切り（根切りマット有）

①根が紙筒下部から始始め頃から始める（播種後20日目頃）。

(2) スミセブンP液剤の散布

①散布時期：本葉抽出期（本葉長2mm以上）～移植2週間前まで。

※本葉2～3mm期の散布が効果的です。

②希釈倍率：基本は15倍（登録は10～20倍）

③散布方法：茎葉散布（噴霧器使用）・・・噴霧器は必ず十分に洗浄して使用すること。

④散布翌日に適宜灌水（1L/1冊）・・・灌水を控えるとこじれ苗の原因となる。

※適宜灌水は根張りを促進し、胚軸の太い苗になります。

1ha（60冊）分

薬 剤 名	倍率	薬 量	水 量	総使用回数	備 考
スミセブンP液剤	15倍	200ml	3L	1回	散布水量：50ml/1冊